

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設の研究用）

西暦 2017年 7月 27日作成

<p>研究課題名</p>	<p>クラミジア感染と妊娠転帰の検討</p>
<p>研究の対象</p>	<p>2000年-2016年の期間に当院で分娩した症例を対象とし、クラミジア感染を合併した妊婦の妊娠分娩転帰を後方視的に検討する。</p>
<p>研究目的 ・方法</p>	<p>クラミジア・トラコマティスによる性器クラミジア感染症は80%が無症状であるにもかかわらず骨盤内炎症性疾患や不妊症の原因となる疾患で日本人における性感染症の中で最も頻度の高い疾患であり、日本においては全妊婦に対する公費負担でのクラミジア検査が推奨されている。妊娠中のクラミジア感染は早産や前期破水のリスクを高めることが報告されており、また産道感染により新生児結膜炎や肺炎などの新生児クラミジア感染症を発症しうることから妊娠中の性器クラミジア感染症のスクリーニングと治療は重要である。日本産婦人科医会によるアンケート調査では日本人妊婦における性器クラミジア感染合併率は全年代において2.3%、10代においては15.9%と報告されているが妊娠分娩転帰については検討されていない。今回我々は、近年の日本人妊婦における性器クラミジア感染症の保有率および妊娠分娩転帰に与える影響について検討することを目的とし本検討を行う。</p>
<p>研究期間</p>	<p>平成 29年 9月 13日 ～ 平成 31年 3月 31日</p>
<p>研究に用いる 試料・情報 の種類</p>	<p>情報：当院周産期データベース、治療歴、病歴、検査データ</p>
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話またはFAXでお申出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。</p>	
<p>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 横浜市立大学附属市民総合医療センター 所属：総合周産期母子医療センター 氏名：青木 茂 〒：232-0024 住所：横浜市南区浦舟町 4-57 電話：045-261-5656</p>	